

WHO news January 2023

2023年1月5日

[WHO meets with Chinese officials on current COVID-19 situation](#)

A high-level meeting took place on 30 December between WHO and China about the current surge in COVID-19 cases, to seek further information on the situation, and to offer WHO's expertise and further support..

WHO、COVID-19の現状について中国政府関係者と会談

12月30日、WHOと中国との間で、COVID-19感染者の急増についてハイレベル会合が開催され、中国での状況についてさらなる情報を求め、WHOの専門知識提供やさらなる支援が決定しました。WHOは、疫学的状況について、特定かつリアルタイムのデータを定期的に共有するよう再度要請し、リスクの高い人々の重症化や死亡を防ぐために、ワクチン接種とブースターの重要性を改めて強調しました。

また、中国に対し、ウイルス配列、臨床管理、影響評価を強化するよう求め、これらの分野や、ワクチン接種をためらう人に向けたリスクコミュニケーションについて支援を提供する意向を示しました。

WHOは、1月3日に開催されるSARS-CoV-2ウイルス進化に関する技術諮問委員会で、中国の科学者にウイルス配列決定の詳細データを発表するよう要請しました。

2023年1月5日

[TAG-VE statement on the meeting of 3 January on the COVID-19 situation in China](#)

The Technical Advisory Group on Virus Evolution (TAG-VE) meets regularly to review the latest scientific evidence on circulating SARS-CoV-2 variants and advises WHO on whether a change in public health strategies is warranted. The TAG-VE met on 3 January 2023 to discuss the COVID-19 situation in mainland China..

中国におけるCOVID-19の状況について : TAG-VE 声明

1月3日、TAG-VE (ウイルス進化に関する技術諮問グループ) は、中国本土のCOVID-19の状況について議論しました。

概要は以下の通りです。

- 中国CDCから、2022年12月1日から収集・配列決定された2000以上のゲノムに基づくデータが発表された。
- 発表されたゲノムデータによると、オミクロン系統のBA.5.2およびBF.7が優勢であり、2つを合わせると全局所感染の97.5%を占めている。他のいくつかの既知のオミクロン亜種も検出されたが、これらは既知であり、他の国でも検出されていて、現時点では中国で新しい亜種

種は報告されていない。

- TAG-VE は、中国および世界の代表的なゲノムサーベイランスを高い水準で維持し、ゲノム配列に関連する臨床・疫学的メタデータを注釈し、そのデータを迅速に共有することが、世界規模のリスク評価を適時に行うための柱となり、さらなる解析と配列データの共有が必要かつ重要であることを再確認している。
- TAG-VE は定期的に会合を開き、診断法、治療法、感染や重症化を防ぐためのワクチンの効果への潜在的な影響を含め、変異体の感染性

2023 年 1 月 5 日

[WHO Director-General's opening remarks at the media briefing – 4 January 2023](#)

2023 年、WHO 事務局長年頭挨拶

テドロス事務局長の年初の記者会見の要旨は以下の通りです。

- COVID-19 パンデミックの 4 年目に入った今、世界は数年前よりはるかに良い状況にある。
 - ワクチン接種は世界中で増加し、ワクチンのナショナリズムで 2021 年に大きく取り残されていた多くの低・中所得国でも、22 年には持続的な進歩が見られた。
 - 昨年は新たな救命抗ウイルス薬が確認され、インドのメーカーによる、ニルマトルビルとリトナビルの製造が事前承認され、WHO の承認を得た最初の抗ウイルス剤のジェネリック医薬品として、特に低・中所得国での生産とアクセスの増加につながることが期待できる。
 - しかし、COVID-19 の脅威は依然として残っている。
 - 我々は中国に対し、より迅速で定期的な信頼できる疫学データとより包括的でリアルタイムのウイルス配列決定を引き続き求めている。
 - 中国での感染率が非常に高く信頼できるデータが得られない中、一部の国が必要な措置をとっていることは理解できる。
 - 中国以外では XBB.1.5 が米国と欧州で増加傾向にあり、現在 25 カ国以上で確認されており、WHO はこの亜種のリスクを注意深く観察し評価しており、適宜報告する予定である。
 - この数年間は、私たちの健康にとって厳しいものだったが、力を合わせてこそ、私たちができることがあるという確信と揺るぎない信念を持っている。今年 WHO の創設 75 周年であり、この歴史的な年に向けた WHO の計画について、今後数週間、そして WHO 執行理事会で詳しく伝えしていく予定である。
-

2023年1月5日

[Roadmap for the Global Health for Peace Initiative: Draft](#)

. This draft Roadmap for the Global Health for Peace Initiative has been developed in response to decision WHA75(24) of the 75th World Health Assembly (2022), which requested that WHO develop, in full consultation with Member States and Observers, and in full collaboration with other organizations of the United Nations system and relevant non-State actors in official relations with WHO, a Roadmap, if any, for the Initiative.

「平和のためのグローバルヘルス・イニシアティブ」ロードマップ：草案

「平和のためのグローバルヘルス・イニシアティブ (Global Health for Peace Initiative : GHPI)」は、健康（および健康への介入）と平和との間の既存のつながりを強化することを目的とした WHO のグローバルイニシアチブで、その概念・原則・戦略目標・目的の設定、活動の優先順位などを定め、GHPI の核となる「平和のための保健アプローチ」のプログラミングについても説明しています。GHPI は、脆弱で紛争の影響を受けやすい環境における重要な保健ニーズの根本的要因に対処する手段として開発されたもので、すべての環境においてポジティブな健康上の成果を得るために重要な、健康の社会的決定要因に取り組むことも目的としています。

このロードマップ草案は、第 75 回 世界保健総会 (2022 年) の決定 WHA75 (24) に基づき作成された素案に、2022 年末に実施された第 1 回 協議において加盟国から寄せられた意見を取り入れ、最終案を検討する 第 152 回 理事会に先立って公開されているものです。

2023年1月10日

[A child or youth died once every 4.4 seconds in 2021 – UN report](#)

. An estimated 5 million children died before their fifth birthday and another 2.1 million children and youth aged between 5–24 years lost their lives in 2021, according to the latest estimates released by the United Nations Inter-agency Group for Child Mortality Estimation (UN IGME).

国連報告書：2021年、4.4秒に一人の子どもや若者が亡くなっている

国連子どもの死亡率推定に関する機関間グループ (UN IGME) が発表した最新の推定値によると、2021年には推定 500 万人の子どもが 5 歳の誕生日までに亡くなり、さらに 5 ~ 24 歳の子どもや若者 210 万人が命を落としていることが判明しました。また、別の報告書において同期間に 190 万人の赤ちゃんが死産していることを明らかにしました。悲劇的なことに、これらの死亡の多くは、公平なアクセスと質の高い母子保健・新生児保健・思春期保健があれば防ぐことができたはずで、子どもたちは、生まれた場所によって生存の可能性が大きく異なり、南アジアは全体の 26 % を占め、サハラ以南のアフリカは世界の出生数の 29 % 程度であるにも関わらず、2021年の 5 歳未満児死亡数の 56 % に達し、高い小児死亡リスクにさらされており、欧米諸国の子どもたちのリスクの 15 倍にもなっています。

さらに、2021年における世界の死産全体の 77 % がサハラ以南のアフリカと南アジアで発生しています。

世界の 5 歳未満児の死亡率は今世紀に入ってから 50 % 低下し、それ以上の年齢の子どもや若者の死亡率は 36 % 、死産率は 35 % 低下しました。

これは、女性、子ども、若者のためになる一次医療システムの強化に、より多くの投資がなされたことに起因しています。

しかし、2010 年以降、その成果は著しく減少しており、保健サービスの改善に向けた迅速な行動が取られなければ、2030 年までに 5,900 万人近くの子どもの若者が死亡し、1,600 万人近くの赤ちゃんが死産で失われると、関係機関は警告しています。

2023 年 1 月 10 日

[Regional Action Plan for prevention and control of snakebite envenoming in South-East Asia 2022–2030 published in New Delhi](#)

The *Regional Action Plan for prevention and control of snakebite envenoming in South-East Asia 2022–2030* was published in December, in New Delhi, India. The document builds on the 2019 [global strategy](#) by accelerating efforts to halve the number of deaths and disabilities due to snake bites in the Region by 2030.

南東アジアにおけるヘビ咬傷の予防と制御のための地域行動計画 2022 – 2030

ヘビ咬傷は、貧困にあえぐ人々を苦しめる顧みられない熱帯病であり、世界で年間 180 万～ 270 万人が蛇咬症に罹患していると推定されています。

「南東アジアにおける蛇咬傷の予防と制御のための地域行動計画 2022 – 2030」が、12 月にインドのニューデリーで発表されました。この文書は、2019 年の世界戦略に基づき、2030 年までに地域におけるヘビ咬傷による死亡と障害の数を半減させるための取り組みを加速させるものです。

南東アジア地域は毒蛇の生物多様性のホットスポットであり、また世界で最も密集した農耕地が存在する地域でもあります。この地域の蛇咬傷は、世界の蛇咬傷による死亡者数の約 70 % を占めていると推定されています。インドでの調査だけでも、毎年 77 万～ 124 万件の蛇咬傷による死者が出ていることが分かっています。

しかし、認識不足、適切な治療法（駆除薬など）への不公平なアクセス、社会経済的な課題により、多くの農村部の人々が不当に被害を受け続けています。

多くの顧みられない熱帯病と同様に、ヘビ咬傷による死亡や深刻な結果のほとんどは、安全で効果的な治療によって防ぐことが可能です。

2023 年 1 月 10 日

[SAGE October 2022 report published](#)

The Strategic Advisory Group of Experts (SAGE) on Immunization held a meeting on 3-6 October 2022. This report summarizes the discussions, conclusions and recommendations.

予防接種に関する戦略的アドバイザリーグループ (SAGE) 、2022 年 10 月 報告書 (その 1)

《予防接種 ・ ワクチン ・ 生物学部門》からの報告

● 2021 年だけでも 2,500 万人の子どもがワクチン未接種または接種不足のままであり、低所得国または中所得国の 10 カ国が、世界のゼロドーズ児 (ジフテリア ・ 破傷風 ・ 百日咳を含むワクチンの初回接種を受けていない子供) の 62 % を占めています。

パンデミックから 2 年が経過した現在も、予防接種サービスの混乱は、WHO のすべての地域と所得水準で続いており、医療従事者の能力と回復力に不釣り合いな影響を与え、医療を求める行動に悪影響を及ぼし、他の必須医療サービスから注目とリソースを奪っています。

予防接種プログラムを混乱させた主な原因に対処してこそ、回復が可能になるのです。

● パンデミックの影響で「予防接種アジェンダ 2030 (IA2030) の計画による、将来の 5000 万人の死亡を回避し、ゼロドーズ児を 50 % 削減するという目標」は、予防接種率の低下と、特にアフリカでの高い人口増加により、達成困難なものとなっています。

● しかし、サプライチェーン管理と物流の改善、リアルタイムデータを提供しマイクロプランの強化を可能にする電子データシステムの改善、予防接種プログラムに対するハイレベルな政治的コミットメントと資金提供など、COVID-19 の予防接種展開の成功は、予防接種プログラムの強化に活用することができます。

2023 年 1 月 10 日

[SAGE October 2022 report published](#)

The Strategic Advisory Group of Experts (SAGE) on Immunization held a meeting on 3-6 October 2022. This report summarizes the discussions, conclusions and recommendations.

予防接種に関する戦略的アドバイザリーグループ (SAGE) 、2022 年 10 月 報告書 (その 2)

《ワクチンアライアンス Gavi からの報告》

● Gavi は、ゼロドーズアジェンダを増強し、資金調達と実施を加速するためにプロセスと政策を合理化 ・ 調整し、パートナーシップを強化 ・ 拡大することによって、各国を支援しています。

● 最新の Gavi 戦略 (Gavi 5.1) では、統合的アプローチによるキャッチアップ予防接種の支援と、「COVID-19」パンデミックの悪影響を受けたヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチンの再接種に与えられた優先度が改めて強調される予定です。

● Gavi は、ポリオ撲滅プログラムで学んだゼロドーズ児への到達に関する教訓を生かしながら、引き続きポリオ撲滅活動を支援します。

● Gavi は、規制当局の認可が下り、政策提言が出されれば、ウガンダで発生したスーダン ・ エボラウイルス感染症に対応するための有効なワクチンの入手を加速する準備が整っています。

《IA2030 の実施の進捗状況》

● 2022 年 IA2030 技術進捗報告書、SAGE2022 が発表されました。2021 年、世界の予防接種は再び後退を余儀なくされましたが、これは主に「COVID-19」パンデミックによる混乱が続き、COVID-19 ワクチン展開に注力した結果、通常の保健サービス提供からリソースが流用されたことが原因でした。

● 2018 - 20 年に排除を達成したと確認されていた 10 カ国で麻疹が再興し、排除目標がさらに後退する可能性があります。麻疹・風疹イニシアチブの IA2030 (予防接種アジェンダ 2030) への統合は、予防接種プログラム強化のために世界、地域、国レベルでのパートナーの協調行動を促進し、疾患別イニシアティブと必須予防接種の適切な連携を確保し、未接種・未接種の子どもを特定し予防接種するためのトレーサーとして麻疹を最適に利用する機会となります。

2023 年 1 月 11 日

[A compendium of indicators for monitoring and evaluating progress of the road map for neglected tropical diseases 2021–2030](#)

The road map 2030 was developed by WHO through an extensive global consultation, with indicators set for measuring progress against targets and milestones. This compendium of indicators provides a comprehensive and standardized listing of recommended indicators, including the 70 core indicators presented in the M&E framework. .

顧みられない熱帯病に対するロードマップ「2021 - 2030 の進捗監視評価指標の概要」

顧みられない熱帯病ロードマップ 2030 は、ターゲットとマイルストーンに対する進捗を測定するための指標を設定していて、M & E (モニタリングと評価) フレームワークで提示された 70 の中核指標を含む推奨指標の包括的かつ標準的なリストを提供するものです。

これらの指標は、持続可能性フレームワーク、水と衛生に関する世界戦略、ワンヘルス・アプローチ、皮膚関連の熱帯病の統合的制御と撲滅のための戦略的フレームワークなど、顧みられない熱帯病に対する行動を導くためのロードマップ付属文書に記載されている戦略の報告も支援するものです。

この指標集は、3 つの主要な構成要素があります。

1. ロードマップ指標は、包括的、横断的、疾患別に分類されています。
 2. ロードマップ指標に対する国レベルの進捗を測定するためのプログラム指標 (活動、介入、罹患率・死亡率・障害に関するデータを日常的に追跡するための詳細指標を含む)。
 3. 顧みられない熱帯病プログラムが主要なデータ源ではない、二次データを用いた特別な研究およびその場限りの分析のための追加指標。
-

2023年1月11日

[WHO international standard terminologies on ayurveda](#)

Standard terminology of Ayurveda is an essential tool for working on other standards, guidelines, classifications, and regulations, as well as integrating Ayurveda into health systems. .

アーユルヴェーダに関する WHO 国際標準用語集

伝統医学は、健康維持や病気の予防・治療に利用されてきた長い歴史があります。アーユルヴェーダは、ユナニ医学、中国医学と共に世界中で最も一般的に応用されている健康資源の一つです。アーユルヴェーダに関する WHO 国際標準用語の開発は、安全で効果的なアーユルヴェーダ医療サービスを推進する上で、基本的かつ重要なものであると言えます。国際的に認められた共通用語は、国際的なデータの比較、評価、査定や医療システムへの取り込みを可能にします。この標準用語集により、アーユルヴェーダの専門家、政策立案者、医療従事者、サービス提供者、研究者、一般市民が、コミュニケーション、医療サービス、医療記録において同じ概念、理解、定義を用いることができるようになり、研究、情報交換、標準化、分類における国際協力を支援するものです。

2023年1月11日

[WHO international standard terminologies on unani medicine](#)

Unani medicine is a popular health resource used across the world. Standard terminology relating to Unani medicine is, therefore, an essential tool for working on other standards, guidelines, classifications and regulations, as well as integrating Unani medicine into health systems..

ユナニ医学に関する WHO 国際標準用語集

ユナニ医学とは、イスラム文化圏の伝統的医学で、中国医学、アーユルヴェーダと合わせて「世界三大伝統医学」と呼ばれており、世界中で使用されている人気のある健康リソースです。ユナニ医学に関連する標準的な用語は、他の標準、ガイドライン、分類や規制だけでなく、健康システムにユナニ医学を統合するための作業には不可欠なツールです。この標準用語集により、ユナニ医学の専門家、政策立案者、医療従事者、サービス提供者、研究者、一般市民が、コミュニケーション、医療サービス、医療記録において同じ概念、理解、定義を用いることができるようになります。また、ユナニ医学の研究、情報交換、標準化、分類における国際協力を支援するものです。

2023年1月12日

[WHO international standard terminologies on siddha medicine](#)

Siddha medicine is a popular health resource used across the world. Standard terminology relating to Siddha medicine is, therefore, an essential tool for working on other standards, guidelines, classifications and regulations, as well as integrating Siddha medicine into health systems.

シッダ医学に関する WHO 国際標準用語集

シッダ医学とは、南インド、主にタミル地方に伝わる特有の医学であり、インドの他の伝統医学（ユナニ医学、アーユルヴェーダ）の中でも最も古いといわれ、世界中で使用されている人気のある健康リソースです。

シッダ医学に関連する標準的な用語は、他の標準、ガイドライン、分類や規制だけでなく、健康システムにシッダ医学を統合するための作業には不可欠なツールです。この標準用語集により、シッダ医学の専門家、政策立案者、医療従事者、サービス提供者、研究者、一般市民が、コミュニケーション、医療サービス、医療記録において同じ概念、理解、定義を用いることができるようになります。また、シッダ医学の研究、情報交換、標準化、分類における国際協力を支援するものです。

2023 年 1 月 12 日

[Uganda declares end of Ebola disease outbreak](#)

Uganda today declared the end of the Ebola disease outbreak caused by Sudan ebolavirus, less than four months after the first case was confirmed in the country's central Mubende district on 20 September 2022..

ウガンダ、エボラ出血熱の終息を宣言

1 月 11 日、ウガンダは、2022 年 9 月 20 日に同国中央部のムベンデ地区で最初の患者が確認されてから 4 カ月足らずで、スーダン・エボラウイルスによるエボラ出血熱の流行が終息したことを宣言しました。

スーダンでは、この 10 年間で初めてのエボラ出血熱の発生となりますが、保健当局は強力な政治的コミットメントを示し、加速度的に公衆衛生活動を実施し、ホットスポットであるムベンデとカサンダのコミュニティでは、人々の移動が制限されました。これにより、11 月 30 日に最後の患者が退院し、流行終了までの 42 日間のカウントダウンが始まり、先日これが終了しました。

今回のエボラ出血熱の発生は、治療薬やワクチンのないスーダン・エボラウイルスによって引き起こされましたが、ウガンダは長年にわたる疫病への対応経験を活かし克服することができたのです。

WHO は、ウガンダがスーダン・エボラウイルスの発生を宣言した直後、ワクチン開発者、研究者、ドナー、ウガンダ保健当局を含む多くのパートナーと協力して、治験に参加する治療薬やワクチンの 3 種類の候補を特定し、12 月 8 日と 12 月 17 日にそれぞれ 5000 回分以上がウガンダに到着しました。この協力体制の確立は、急速に拡大する感染症に対応し、その拡大を防止するための世界的な能力において、画期的な出来事となりました。

これらの候補ワクチンは、今回のアウトブレイクでは使用されませんでした。ウガンダとパートナーがエボラ出血熱との闘いに貢献していることに変わりはありません。次にスーダンのエボラウイルスが発生した時、我々は、開発者、ドナー、保健当局の強固な協力を再開し、候補ワクチンを派遣することができます

2023年1月16日

[Urgent action needed as acute malnutrition threatens the lives of millions of vulnerable children](#)

United Nations agencies are calling for urgent action to protect the most vulnerable children in the 15 countries hardest hit by an unprecedented food and nutrition crisis.

急性栄養失調により数百万人の子どもたちの命が脅かされている

紛争、気候変動、COVID-19の継続的な影響、生活費の上昇により、急性栄養失調に陥る子どもたちが増えている一方で、保健、栄養など命を救うための主要なサービスへのアクセスは悪くなっています。現在、最も深刻な被害を受けた15カ国では、3,000万人以上の子どもたちが消耗性疾患、つまり急性栄養不良に苦しんでおり、そのうち800万人は重度の状態にあります。これは、子どもたちの命と長期的な健康と発達に対する大きな脅威であり、その影響は個人、地域社会、そして国にも及びます。

このことにより、国連食糧農業機関（FAO）、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、国連児童基金（UNICEF）、世界食糧計画（WFP）、世界保健機関（WHO）の5機関は世界に向け「子どもの飢餓に関する世界行動計画」の進展を加速するよう呼びかけており、アフガニスタン、ブルキナファソ、チャド、コンゴ民主共和国、エチオピア、ハイチ、ケニア、マダガスカル、マリ、ニジェール、ナイジェリア、ソマリア、南スーダン、スーダン、イエメンなど、最も被害が大きい国々の子どもたちの急性栄養失調を予防、発見、治療することを目的としています。

2023年1月16日

[WHO welcomes data on COVID-19 in China, meeting with Minister](#)

Earlier today, WHO Director-General Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus spoke with Minister Ma Xiaowei, director of China's National Health Commission, about the COVID-19 situation in the country. WHO appreciates this meeting, as well as the public release of information on the overall situation.

WHO：中国のCOVID-19情報公開を歓迎、さらなる情報開示を要求

テドロス事務局長は、中国国家衛生委員会の馬曉偉主任と、同国のCOVID-19の状況について会談を行い、COVID-19情報の公開を歓迎しました。

中国当局は、外来診療、入院、緊急治療や重症患者、COVID-19感染に関連する病院での死亡など、さまざまなトピックについてWHOおよび記者会見で情報を提供しました。報告されたデータでは、患者数、入院数、重症化した患者数が減少していることが示されていますが、WHOは、経時的な地域ごとのより詳細な内訳データを要求しています。

また、WHOは引き続き、より深い系統分析のためにGISAIDなどのオープンアクセスのデータベースと情報のさらなる共有を進め、ウイルス進化、臨床治療、およびそれ以外に取り組む技術集団と引き続き協力するよう要請しています。

2023年1月16日

[Close to one billion people globally are served by health-care facilities with no electricity access or with unreliable electricity](#)

Close to 1 billion people in low- and lower-middle income countries are served by health-care facilities with unreliable electricity supply or with no electricity access at all, according to a new report from the World Health Organization (WHO), the [World Bank](#), the [International Renewable Energy Agency \(IRENA\)](#), and [Sustainable Energy for All \(SEforAll\)](#)..

世界で 10 億人近くが、電気がない、あるいは信頼性の低い電気のもとで医療サービスを受けている（共同報告書）

WHO や世界銀行などによる新しい報告書によると、低・中所得国の約 10 億人が、電力供給の不安定、あるいは電力アクセスが全くない医療施設でサービスを受けていることが明らかになりました。

医療施設の電化の促進は、命を救うために不可欠です。送電網を待たなくてはならない必然性はなく、また、待つ時間もありません。

低・中所得国の医療施設のほぼ 3 分の 2 が何らかの必要な電力供給への緊急介入を必要としており、最低限の電化水準にするためには約 49 億米ドルが必要であるとされています。

報告書では、すべての医療施設に信頼できる電気がなければ、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成することはできない、と指摘し、太陽光発電システムなどに基づく分散型の持続可能なエネルギーソリューションなどの早急な構築を提言しています。

2023年1月17日

[Strengthening WHO preparedness for and response to health emergencies](#)

The proposals contained in this framework are designed to complement, strengthen and promote collaboration among existing institutions, mechanisms and structures, as well as to build stronger and more resilient networks of global health partners.

WHO の緊急事態への備えと対応の強化：より安全な世界を共に構築するための 10 の提案（執行理事会暫定議題）

1月30日から第152回執行理事会が開催されます。検討議題のひとつである「緊急事態への備えと対応の強化」のドラフトにおいて、より安全な世界を共に構築するため、以下の10提案が公表されました。

1. 執行理事会の常設委員会および世界保健総会の緊急事態に関する主要委員会を補完するため「世界保健緊急事態評議会」の設立
2. 国際保健規則（2005年）の的を絞った改正
3. ユニバーサルヘルスおよび準備審査の規模拡大と独立したモニタリングの強化
4. 健康危機管理人材の強化

5. 保健緊急事態への準備と対応の戦略的計画
6. 共同サーベイランス、コミュニティ保護、安全でスケーラブルなケア、医療対策へのアクセス、緊急時の調整などの強化
7. ファイナンスと医療の意思決定者間の連携を強化
8. パンデミック基金を強化し、十分な資金提供。
9. 迅速に拡張可能で持続可能な緊急対応に利用できる資金拡大
10. WHO の世界的 HEPR アーキテクチャのセンター化

(注) HEPR : Health Emergency Preparedness and Response Program (保健危機への備えと対応にかかる包括的プログラム)

2023 年 1 月 18 日

[WHO announces plans to establish a TB Vaccine Accelerator council](#)

Speaking earlier today at a high-level panel on TB at the World Economic Forum, Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus, Director-General of the World Health Organization, announced plans to establish a new TB Vaccine Accelerator Council.

WHO : 結核ワクチン推進協議会の設立へ

COVID-19 パンデミックが結核サービスに与えた悪影響により、ワクチン開発の緊急性がクローズアップされています。WHO のテドロス事務局長は世界経済フォーラムで、新たに「結核ワクチン推進協議会」を設立する計画を発表しました。この協議会は、結核ワクチン開発における障壁を特定し克服するために、資金提供者、国際機関、政府、エンドユーザー間のハイレベルな連携を促進し、効果的な新規結核ワクチンのライセンスと利用を促進するものです。

持続可能な開発目標、WHO 結核撲滅戦略、結核との闘いに関する 2018 年の政治宣言において、各国が 2030 年までに結核を撲滅することを約束しているにもかかわらず、流行は衰える気配を見せません。

BCG は現在、認可されている唯一の結核ワクチンですが、青年や成人に対しては、十分な予防効果がありません。

WHO の委託研究 An investment case for new tuberculosis (TB) vaccines では、青年および成人の結核予防効果が 75 % の有効性を持つワクチンであれば、25 年間で 1 億 1,000 万人の新規結核患者と 1,230 万人の死亡を回避することができるとしています。

今年後半、各国首脳は 2018 年の政治宣言での公約に対する進捗を確認するため、第 2 回 結核に関する国連ハイレベル会合を開催する予定です。

これは、新しい結核ワクチンの緊急開発と提供を含む結核対策の後退を是正する重要な機会を提供するものです。

2023年1月18日

[75 years of improving public health](#)

On 7 April 2023 – World Health Day – the World Health Organization will observe its 75th birthday. In 1948, countries of the world came together and founded WHO to promote health, keep the world safe and serve the vulnerable – so everyone, everywhere can attain the highest level of health and well-being.

公衆衛生の向上に貢献した 75 年

世界保健機関は2023年4月7日の世界保健デーに75歳の誕生日を迎え、過去70年間に生活の質を向上させた「公衆衛生の成功」を振り返る機会であり、今日と明日の健康課題に取り組むための行動を喚起する機会でもあります。

WHOと共に、Health For Allを達成するための旅に出かけましょう。

《キーメッセージ》

- Health For All は、世界中において平和で豊かで持続可能な生活を送るために、良好な健康状態維持を目的としています。
 - 健康に対する権利は基本的人権で、誰もが、必要な時・場所で、必要な保健サービスを受けられなければなりません。
 - 世界人口の30%が必要な保健サービスを受けることができません。
 - 約20億人が壊滅的な、あるいは困窮した医療費に直面しており、著しい不平等が最も脆弱な環境にいる人々に影響を及ぼしています。
 - ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) は、経済的で質の高い必須サービスを提供し、貧困から救い幸福を促進し、Health For All に向かって前進させます。
 - すべての人の健康を実現するためには、医療を必要とする個人とコミュニティや、適切なケアを提供できる熟練した医療従事者、そして国民皆保険に投資することが必要です。
 - PHCアプローチによる保健システムは、健康と幸福に人々に近づけるための、最も効果的で費用対効果の高い方法であることを証拠が示しています。
 - すべての国において、COVID-19をはじめとする保健分野の緊急事態、重なり合う人道的・気候的危機、経済的制約、戦争は、Health For All への道のりをより短縮される必然を生じました。今こそ市民社会は指導者に責任を感じさせ、指導者はユニバーサル・ヘルス・カバレッジの公約を果たすために行動を起こすべき時なのです。
 - 健康関連のSDGsを達成するためには、これらの進捗を加速させる必要があります。
-

2023年1月19日

[Small Island Developing States accelerate action to tackle biggest killers](#)

The Government of Barbados, the World Health Organization (WHO) and the Pan American Health Organization are holding a high-level technical meeting on noncommunicable diseases (NCDs) and mental health with Small Island Developing States (SIDS). The discussion focusses on progress, challenges, and opportunities to scale up multi-sector actions on NCDs and mental health and to set out recommendations to scale up actions that save and improve lives.

小島嶼国、最大の死因に取り組むための行動を加速

バルバドス政府、WHO、汎米保健機関 (PAHO) は、小島嶼開発途上国 (SIDS) と非感染性疾患 (NCDs) およびメンタルヘルスに関するハイレベル技術会議を開催し、WHO は SIDS における NCD に関するデータポータルを公開しました。

そして、SIDS が NCD とメンタルヘルスのリスクが世界で最も高い地域として焦点を当てました。データによると、SIDS では半数以上の人々が NCD によって早死にしており、ほぼすべての国で高血圧の割合が 30 % を超えており、すでに緊張状態にある医療制度にさらなるプレッシャーを与えています。しかし、NCD の予防と管理、メンタルヘルスの促進とケアに対する進展と投資は、依然として不十分です。

今回のハイレベル会合で、各国は、2030年までに NCD と自殺による早期の死亡率を 3 分の 1 に減らすという SDGs の目標達成のために、NCD とメンタルヘルスに関する行動を拡大するための重要な提言を確認しました。提言には、NCD とメンタルヘルス状態の早期発見、予防、管理のための協力の加速、気候危機とパンデミックに直面した際の保健システムの強化、肥満への取り組みに焦点を当てた健康増進と NCD 予防、NCD とメンタルヘルスに対する適切で持続的資源 (資金と人材) の提供、保健情報システムの強化など、具体的行動が含まれています。これらの提言は、2023年6月の閣僚級会合に向けた成果文書にも反映される予定です。

2023年1月23日

[How well do development partners work together and follow country priorities to achieve the health SDGs?](#)

Progress is lagging to achieve the health-related SDG targets. The world was off track before COVID-19 and many indicators are further off track now. Hence, a call for stronger collaboration and alignment with country priorities is more urgent than ever.

開発パートナーは、健康 SDGs を達成するためにどの程度協力し、国の優先事項に従っているのだろうか？

WHO が主催する SDG3 GAP 事務局は、2022 年前半に低・中所得国・地域を中心とする 75 カ国にアンケートを行い 52 カ国 (69 %) から回答がありました。これらの各国政府および関連当局が、健康関連の SDGs に向けた公平かつ強靱な復興への支援を提供する際に、多国間機関およびその他の開発パートナーが、どれだけ各国の優先事項や計画に沿い、効率性を高め、重複を避けて協力しているかに

ついて意見を述べ、予備的な結果が 2022 年進捗報告書に記載されました。

健康関連 SDGs の目標達成に向けての進捗は COVID-19 以前から相当以上に遅れています。したがって、より強力なコラボレーションや優先事項との整合を求めることが、これまで以上に緊急性を帯びています。

パンデミックの直接的・間接的影響や、重なり合う食料・安全保障・気候危機により、保健関連の SDGs に対する進捗は、これらの目標達成に必要なペースに比べ、さらに大きく遅れをとっています。加速は不可欠であり、それを達成する一つの方法は、各国主導の解決策に基づき、各国のニーズや改善のための提案を慎重に検討し、多国間機関間の連携を強化することであり、このデータはその特定と測定に役立つものです。

2023 年 1 月 23 日

[World Health Organization strategy \(2022-2026\) for the National Action Plan for Health Security](#)

This strategy defines the World Health Organization (WHO) vision and framework for supporting Member States to accelerate the development, implementation and monitoring of their National Action Plan for Health Security (NAPHS) from 2022 to 2026.

WHO の戦略 (2022 - 26) : 健康安全保障国家行動計画の策定、実施、モニタリングの加速を支援

健康安全保障のための国家行動計画は、健康緊急事態の予防、準備、対応、回復における国家の能力を計画、構築、強化、維持し、弱者に奉仕して健康を促進し、世界の健康安全を達成するために、不可欠です。

本戦略は、既存の健康安全保障のための国家行動計画がある場合には、それを利用することを推進しており、独自の計画を追加で作成する必要はありません。

この戦略は加盟国の健康の安全を支援するために、国家行動計画 (NAPHS) の策定、実施、モニタリングを加速する 2022 年から 26 年にかけて WHO のビジョンと枠組みを定義するものです。

2023 年 1 月 24 日

[WHO urges action to protect children from contaminated medicines](#)

WHO is releasing an urgent call to action to countries to prevent, detect and respond to incidents of substandard and falsified medical products.

WHO : 汚染された医薬品から子どもを守るための行動を要請

WHO は、規格外品や偽造医薬品の事件を予防、検出、対応するために、各国への緊急行動を呼びかける文書を発表しました。

過去 4 カ月間に、小児用の市販咳止めシロップに高濃度のジエチレングリコール (DEG) およびエチ

レングリコール (EG) の混入が確認または疑われる事例が、各国で報告されています。この事件は少なくとも 7 カ国で発生し、そのうち 3 カ国で 300 人以上の死者を出しています。多くは 5 歳未満の幼児です。これらの混入物質は、工業用溶剤や不凍液として使用される有毒化学物質で、少量でも摂取すると致死的であり、医薬品には決して含まれていないはずです。

緊急行動呼びかけは以下の通りです。

1. WHO メディカル・アラートで特定された規格外医薬品を検出し、それぞれの市場で流通から排除すること。
2. 市場におけるすべての医療用製品が、所轄官庁によって販売が許可され、認可された供給業者から入手できるようにすること。
3. 国際的な規範や基準に従って、管轄区域内の製造拠点に対するリスクベースの検査を改善し、増加させるために適切なリソースを割り当てること。
4. インフォーマル市場を含む各市場で発売される医療製品について、リスクに応じた標的試験を含む市場サーベイランスを強化すること。
5. 規格外・偽造医薬品の製造、流通、使用に対処するための法律およびその他の関連する法的措置を、適切な場合には制定し施行すること。

2023 年 1 月 24 日

[Five billion people unprotected from trans fat leading to heart disease](#)

Five billion people globally remain unprotected from harmful trans fat, a new status report from WHO has found, increasing their risk of heart disease and death.

心臓病を引き起こすトランス脂肪酸から無防備な 50 億人の人びと

工業的に生産されたトランス脂肪酸は、加工食品、焼き菓子、食用油、スプレッドに多く含まれています。トランス脂肪酸の摂取は、世界中で毎年最大 50 万人の冠動脈性心臓疾患による早期の死亡の原因となっています。

そして、依然として世界で 50 億人がトランス脂肪酸の健康への壊滅的な影響によるリスクにさらされています。

WHO が 2018 年に工業的に生産されたトランス脂肪酸の世界的な撤廃を初めて呼びかけて以来 (2023 年に撤廃目標を設定)、ベストプラクティス政策の人口カバー率はほぼ 6 倍に増加し、現在、43 カ国の 28 億人が保護されています。しかし、2023 年の全廃という世界目標は、現時点で達成できないままとなっています。

WHO は、食品メーカーが工業的に生産されたトランス脂肪酸を製品から排除することを奨励しています。油脂の主要な供給者には、世界中の食品メーカーに販売する製品から工業的に生産されたトランス脂肪酸を排除するよう求めています。

「Countdown to 2023 WHO Report on global trans fat elimination 2022」と名付けられたこの報告書は、2023 年のトランス脂肪酸除去の目標に向けた進捗状況を確認するために、WHO が Resolve

to Save Lives と共同で発行する年次現状報告書です。

2023年1月25日

[WHO launches funding appeal to help a record number of people in complex, intersecting health emergencies](#)

WHO is launching its 2023 health emergency appeal today for US\$ 2.54 billion to provide assistance to millions of people around the world facing health emergencies. The number of people in need of humanitarian relief has increased by almost a quarter compared to 2022, to a record 339 million..

WHOの「2023年保健緊急アピール」：25億4,000万米ドル

WHOは、健康上の緊急事態に直面している世界中の何百万人もの人々に支援を提供するため、25億4千万米ドルの2023年健康緊急事態アピールを開始します。人道的支援を必要とする人々の数は、2022年と比較してほぼ4分の1増加し、過去最高の3億3,900万人となりました。

現在、WHOは、パキスタンの洪水やサヘル全域および大アフリカの角における食糧不安など気候変動に関連する災害、ウクライナの戦争、イエメン、アフガニスタン、シリア、エチオピア北部での紛争による健康影響など、これまでにない数の交差する健康緊急事態に対応しており、これらの緊急事態はすべて、COVID-19パンデミックやはしか、コレラなどの発生による保健システムの混乱に重なり合うものです。

テドロス事務局長は、「かつてないほど多くの人々が病気や飢餓の危機に直面し、今すぐ助けを必要としています。世界は、このような危機が自然に解決されることを期待して、目をそらすことはできません。寄付者の皆様には、WHOが人命を救い、国内および国境を越えた病気の蔓延を防ぎ、コミュニティの再建を支援するために、寛大なご支援をお願いします」と述べています。

WHOは現在、世界中で54件のワンヘルス危機に対応していますが、そのうち11件はWHOの最高レベルの緊急事態であるグレード3に分類され、組織の3つのレベルすべてでの対応が必要とされています。

2022年、WHOは医薬品、その他の物資、医師やその他ヘルスワーカーのトレーニング、ワクチン、疾病監視の強化、移動診療所、メンタルヘルス支援、妊産婦健康相談など、多くの支援を提供しました。WHOは、健康、生命、生活を守るために、費用対効果が高く、インパクトのある対応を行っています。WHOに1米ドル投資するごとに、少なくとも35米ドルの投資収益率を生み出しています。

2023年1月26日

[Practical manual on tuberculosis laboratory strengthening updated to support the implementation of WHO-recommended diagnostics](#)

The [Practical manual on TB laboratory strengthening](#) was released today to support implementation of World Health Organization (WHO) recommended TB diagnostics through quality assured TB laboratory services and networks..

「結核検査室強化のための実践マニュアル」更新

WHO が推奨する結核診断の実施を支援するため、「結核検査室強化のための実践マニュアル」が発表されました。

本書は、WHO の勧告とモデルアルゴリズムの概要を説明するとともに、結核研究所ネットワーク、品質管理システム、サンプル採取と輸送、バイオセーフティ、研究所の運営管理などの主要な技術分野についても言及しています。このマニュアルは、2017 年に発行された「GLI 結核検査室強化の実践マニュアル」の更新版であり、結核の診断と薬剤耐性を検出するための新しいツールに関する最新の WHO 勧告に沿ったものとなっています。

2023 年 1 月 26 日

[With EU funding, WHO donates ambulances to Ukraine to support emergency health needs amid the war](#)

WHO donated 26 ambulances to the Ministry of Health of Ukraine to enable the provision of emergency medical care to patients during the war. ..

WHO : ウクライナに救急車 26 台を寄贈

WHO は、戦争が始まって以来、ウクライナに 2000 トン以上の救命医療物資を届けてきました。その中には、発電機、救急車、医療施設用の酸素供給、外傷や緊急手術用の物資、非伝染性疾患の治療に役立つ医薬品などが含まれています。

1 月 23 日、WHO はウクライナ保健省に、戦時中の患者への緊急医療提供を可能にするため、救急車 26 台を寄贈しました。

寄贈されたのは、重傷患者を医療施設に搬送できるようにする、酸素ボンベ、除細動器、搬送用人工呼吸器などの医療機器を搭載した患者搬送用救急車 6 台と移動式集中治療室用救急車 20 台です。

2022 年 2 月 24 日以降、WHO とそのパートナーから 30 台以上の救急車が保健省に寄贈されています。今年後半には、さらに多くの救急車が届けられる予定で、今回の寄贈は、欧州連合 (EU) の資金援助により実現しました

2023 年 1 月 26 日

[One-stop resource toolkit launched on refugee and migrant health](#)

WHO developed a [Refugee and migrant health toolkit](#), a web-based one-stop comprehensive platform of tools and resources, to support the global, regional, and country efforts in implementing health and migration-related activities .

難民・移民の健康ツールキット

WHO は、健康と移民関連の活動を実施する際の世界、地域、国の取り組みを支援するため、ウェブベースのワンストップ総合プラットフォーム「難民と移民の健康ツールキット」を開発しました。

難民や移民は、移住の状況、国の移住政策、言語・文化・経済・社会的障壁など多くの要因に直面し、しばしばヘルスサービスへのアクセスを阻害される可能性があります。意思決定者と保健医療従事者がこれらの人々の健康上のニーズと権利を満たし、健康と移住の課題を推進するために必要な知識と手段を備えた、強力で包括的な保健システムを国が持つことが不可欠です。

WHO 加盟国、WHO 各国事務所、国連パートナー、難民・移民の健康に携わる NGO は、難民・移民の健康ツールキットを利用して、真に公平で包括的な健康プログラムを実施し、難民・移民と受け入れ側の人々の健康を促進する国の健康計画・戦略の評価・強化が可能となります。

2023 年 1 月 26 日

[World Leprosy Day 2023](#)

World Leprosy Day (WLD) is celebrated on the last Sunday of January.

In 2023, World Leprosy Day is Sunday 29 January. This international day is an opportunity to celebrate people who have experienced leprosy, raise awareness of the disease, and call for an end to leprosy-related stigma and discrimination. .

世界ハンセン病の日

1 月 29 日は世界ハンセン病の日 (WLD) です。

この国際デーは、ハンセン病の経験者を称え、ハンセン病に対する認識を高め、ハンセン病にまつわる偏見や差別の撤廃を訴える機会となっており、2023 年のテーマは、“Act Now. End Leprosy”で、以下の 3 つの重要なメッセージによって注意を喚起しています。

1. 撲滅は可能であり、私たちには、感染を食い止め、この病気に打ち勝つための力と手段がある。
2. 今すぐ行動しよう。ハンセン病の制圧に向けた取り組みが必要で、制圧を優先すべきだ。
3. 手を差し伸べられない人々に手を差し伸べよう

ハンセン病は予防も治療も可能で、この病で苦しむ必要は有りません。ハンセン病の歴史は少なくとも 4000 年以上あり、人類が知る限り最も古い病気のひとつとされています。しかし、私たちは、ハンセン病の感染を最終的になくす世代になれると信じています。

私たちの目標は、2030 年までにハンセン病の新規患者数がゼロになる国を 120 カ国達成することです。

2023 年 1 月 26 日

[Executive Board, 152nd session](#)

The 152nd session of the Executive Board takes place on **30 January – 7 February 2023**. Proceedings will be webcast from this page. .

第 152 回 執行理事会 1 月 30 日開始

第 152 回 執行理事会が、2023 年 1 月 30 日から 2 月 7 日まで、ジュネーブの WHO 本部で開催されます。

議題には、以下を含む 47 の項目があります。

- WHO 事務局長による報告
- 地域委員会の理事会に対する報告
- WHO の健康緊急事態への備えと対応の強化
- 健康緊急事態への備え、対応、レジリエンスのためのグローバル アーキテクチャの強化
- 執行委員会のプログラム、予算および管理委員会の報告
- 提案されたプログラム予算 2024 - 2025
- 持続可能な資金調達に関する作業部会報告
- 事務局改革実行計画
- 南北アメリカのリージョナル ディレクターの任命

暫定議題とその他すべての会議文書は、WHO 理事会の Web サイトで 6 つの国連言語で入手できます。暫定議題には、会議文書へのハイパーリンクも含まれています。

追加情報：今年、WHO は 75 周年を迎えます。「健康の未来：今後 25 年間のガバナンスに影響を与える」というタイトルのランチタイム イベントが、1 月 31 日の 13 : 20 - 14 : 30 (CET) に開催されます。

[このイベントは、こちらの WHO の Web サイトから Web キャストされます。](#)

2023 年 1 月 30 日

[WHO updates critical medicines list for radiological and nuclear emergencies](#)

The World Health Organization (WHO) today updated its list of medicines that should be stockpiled for radiological and nuclear emergencies, along with policy advice for their appropriate management. These stockpiles include medicines that either prevent or reduce exposure to radiation, or treat injuries once exposure has occurred.

放射線および原子力緊急事態のための重要医薬品リストを更新

WHO は、放射線および原子力緊急事態に備えて備蓄すべき医薬品のリストを更新し、その適切な管理のための政策的助言を行いました。これらの備蓄品には、放射線被ばくを予防・低減する医薬品や、被ばく後の傷害を治療する医薬品が含まれています。このリストでは、原子力発電所や医療・研究施

設における放射線・核災害、放射性物質の輸送中の事故、悪意ある放射性物質の故意の使用などのシナリオを想定し、放射線被ばくの治療に用いる医薬品に焦点を当て、その備蓄のガバナンスと管理について述べています。

本書は、2007年に発行されたWHOの緊急時対応国家備蓄に関する報告書に代わるもので、過去10年間の放射線緊急医療の発展に基づいて、備蓄の処方に関する情報を更新しています。また、人間の放射線への過剰被ばくを防止または治療するために、現在知られていて認可されている特定の薬物のみを掲載しています。

2023年1月30日

[World NTD Day 2023](#)

The COVID-19 pandemic and a changing funding landscape, as well as an unpredictable international context, pose challenges for the NTD community's work

「顧みられない熱帯病 (NTD) デー」 2023

1月30日は、「世界顧みられない熱帯病デー」です。

テーマは「Act Now. Act Together. Invest in Neglected Tropical Diseases (今、一緒に行動を！顧みられない熱帯病に投資を！)」です。

顧みられない熱帯病 (NTDs) は、水の安全性や衛生環境、ヘルスケアへのアクセスが最適とはいえない世界の最貧地域に蔓延しています。NTDs は、世界で 10 億人以上が罹患しており、ウイルス、細菌、寄生虫、真菌、毒素など様々な病原体が原因となっています。これらの疾患は、世界のヘルスアジェンダからほとんど姿を消し、資金もほとんど提供されず、スティグマや社会的排除と関連しているため、「顧みられない (neglected)」疾患とされています。

2023年1月31日

[Statement on the fourteenth meeting of the International Health Regulations \(2005\) Emergency Committee regarding the coronavirus disease \(COVID-19\) pandemic](#)

The WHO Director-General concurs with the advice offered by the Committee regarding the ongoing COVID-19 pandemic and determines that the event continues to constitute a public health emergency of international concern (PHEIC).

COVID-19：国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC) を継続

COVID-19のパンデミックに関する国際保健規則(2005)(IHR)緊急委員会の第14回会合が1月27日に開催され、事務局長は、委員会が提示した助言に同意し、COVID-19が引き続き国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)であると決定しました。

2020年1月にCOVID-19のPHEICが決定してから今週で3年になります。1年前のオミクロン感

染のピーク時に比べれば、世界は良い状態にあります。この 8 週間の間に、世界で 17 万人以上の COVID-19 関連の死亡が報告されており、さらに、サーベイランスと遺伝子配列の決定が世界的に減少し、既知の変異体の追跡と新しい変異体の検出がより困難になっています。

現在、ヘルスシステムは COVID-19 とインフルエンザや RS ウイルス (RSV) 感染症患者のケアや、ヘルスワーカーの不足と過労に悩まされています。ワクチン、治療薬、診断薬は、重症化を防ぎ、命を救い、世界中の医療制度や医療従事者の負担を軽減する上で、これまでも、そしてこれからも重要な役割を担っています。しかしながら、COVID-19 への対応は、最も必要としている人々、高齢者や医療従事者にこれらの手段を提供できない国が非常に多く、依然として足かせとなっています。

2023 年 1 月 31 日

[More countries eliminate neglected tropical diseases but investments key to sustain progress](#)

Today, on [World Neglected Tropical Disease \(NTD\) Day](#), WHO releases a new progress report, entitled "[Global report on neglected tropical diseases 2023](#)" highlighting the progress and challenges in delivering NTD care worldwide, against a backdrop of COVID-19-related disruptions.

顧みられない熱帯病 (NTDs) に関する世界報告書 2023

NTDs : 顧みられない熱帯病 (Neglected Tropical Disease) は、水の安全性や衛生環境、ヘルスケアへのアクセスが不十分な地域を中心に、国際社会の最貧困層に過大な影響を与え続けています。

2021 年には 179 の国と地域で少なくとも 1 件の NTD の症例が報告されましたが、そのうち 16 カ国で世界の NTD の 80 % を占めています。また、世界全体で約 16.5 億人が少なくとも 1 つの NTD の治療を必要とすると推定されていました。

WHO は、「NTDs に関する世界報告 2023」と題する新しい進捗報告書を発表しました。

この報告書によると、2020 年から 2021 年の間に NTD の介入を必要とする人の数は 8000 万人減少し、2022 年だけで 8 カ国が 1 つの NTD をなくしたと認定または検証されました。2022 年 12 月時点で、47 カ国が少なくとも 1 つの NTD をなくし、さらに多くの国がこの目標を達成する過程にあります。この成果は、10 年にわたる大きな進展の上に成り立っています。2021 年には、2010 年に比べて NTD に対する介入が必要な人が 25 % 減少し、2016 年から 2019 年にかけて、毎年 10 億人以上が大量治療介入により NTD の治療を受けました。

本報告書は、2030 年までに NTD ロードマップの目標達成の遅れを取り戻し、進捗を加速させるために必要な、より大きな努力と投資を強調しています。

NTD ロードマップの目標を達成し、感染者に質の高い NTD サービスを提供するという約束を各国が果たすためには、国のオーナーシップと説明責任を促進し、国内資金の充実を含む資金の持続性と予測可能性を高めることが重要です。

2023年1月31日

[WHO Director-General's remarks at the 152nd session of the Executive Board](#)

At the Executive Board last year, I laid out five priorities for the coming five years, as we work together to reinvigorate progress towards the 13th General Programme of Work, the “triple billion” targets and the health-related SDGs. .

第 152 回 執行理事会における WHO 事務局長挨拶

執行理事会におけるテドロス事務局長の挨拶の要旨は以下の通りです。

1. COVID-19 について、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態延長を宣言した。
2. 今後 5 年間の 5 つの優先事項：「5 つの P」

「Promoting」「Providing」「Protecting」「Powering」「Performing for health」
ただしこの「5 つの P」は、国連の指導的戦略である GPW (第 13 次 一般作業計画)や「トリプル 10 億」ターゲットに代わるものではない。

- 第一に、より多くの人々が健康とウェルビーイングを享受するという私たちの目標達成に不可欠な「病気の根本原因に対処することによる健康増進」
- 第二に、UHC の恩恵を受ける人々がさらに 10 億人増えるという我々の目標達成のために不可欠な「保健システムをプライマリーヘルスケアに方向転換することによる、保健の提供」
- 第三に、対応、回復力のためのグローバルなアーキテクチャを強化することにより、健康を守ることで「健康緊急事態への備え」
- 第四に、イノベーション、データ、デジタル技術、パートナーシップを活用することで、「ワンヘルスをパワーアップさせること」
- 第五に、結果を出し、グローバルヘルスにおいて主導的な役割を果たすことを成し遂げるため「より強力な WHO を構築し、健康のために行動すること」

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう 標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHO ニュースリリース、声明及びメディア向けノートの原文をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>